

測を行ってみたいと考えている。

### 3. む す び

- (1) 山口盆地の地形風は山口付近の気圧傾度がゆるやかな時起りやすく、天候が晴で移動性高気圧の通過する場合は、その生起率は殆んど100%である。
- (2) 風向の交替は日照に大きく影響される。山口市に於ける南西風の開始は日出後2時間半乃至3時間であるが北東風へ転ずるのは日没後30分以内である。盆地の気層があたためられるのには時間を要し、冷却はすみやかに行われることを示唆している。
- (3) 平野部小郡と山奥部仁保の温度差が大体1°Cに達すると中間の山口市で風向の逆転が起る。
- (4) 風向の逆転は、盆地からの吹出しのときも盆地への流入のときも、山口の方が平野部の小郡より早く、小地形に起った山谷風の性質のものが逐次盆地全体に波及し、山口県の海岸部と山地の間に起る海陸風的なもの

のに合成されて行く如き機構が考えられるのではないかと思う。

この調査に終始助言を頂いた山口測候所 大谷重治氏 気象観測に従事して下さった小郡中学校 仁保中学校の教官並びに生徒諸氏の御援助に対して、謹んで感謝の意を表したい。

### 参 考 文 献

- 弘井一男：『清水の海陸風』(1960)  
 天気 Vol. No. 12. p. 388~393.
- 島木 準：『佐賀の海陸風と北東風について』(1961)  
 天気 Vol. 8. No. 2. p. 50~53.
- 立石由己：『菅平における冷気の流出』(1961)  
 天気 Vol. 8. No. 11. p. 366~371.
- 舟田久之：『富山県の高気圧について』(1965)  
 1965年度春季大会講演予稿集  
 (日本気象集會)

### 【書 評】

#### The Elements Rage (The Extremes of Natural Violence) by Frank W. Lane.

1966年の終りごろ、この本の広告が英国気象学会の雑誌“Weather”に出てから、面白そうな本だから見たいものだと思っていたが、このごろようやくそれを一覧することが出来た。まず題名の説明をしておかねばなるまい。element というのは古代哲学で四元とか四大とかいう考えかたで、土、水、火、風のどれか一つを指し、elements という時はこれを一括して天気とか自然力とかいう意味にもなる。

この本は、自然が猛り狂った時にどういふことがおこるかを、沢山の写真版を使って示したものである。本の大きさはB5とA5の間の版、本文215ページ、別刷写真版87個。本文はハリケーン、トルネード、たつ巻、ひょう、なだれ、電光放電、洪水、メテオロイド(流星、いん石、宇宙塵)、地震、火山の10章に分かれている。だからそれぞれのテーマに対して、平均9個の写真版がついているわけで、この写真版は全部で2,000枚の中から選んだというだけあって、中々印象的なものが多い。洪水に流された木の幹が建物の2階に突き刺さって、建物を押し倒した写真だの、洪水に流された家畜が高い木の

枝に首を挟まれて、ぶら下がっている写真だのもある。電光放電に関係したもので、ゴルフリンクに落雷して芝生にリヒテンベルグ像のような枯れ跡を残した写真、建物への落雷で放電路が破線のように明暗になっている写真(説明では脈動する球電となっている)もある。日本の写真は明神礁の海底噴火が1枚入っている。

本文に各章とも最初部分に短い概説があり、次は色々な記録的なものが記述されている。ノアの時代から1966年の初めまでの全世界にわたる資料によって、疑問のあるものについては各国の専門家に照会して確かめた上で、読み易く書かれている。1.5ポンドのひょうや6.5オンスのあられの話、畑に落雷して馬鈴薯が程よく料理された話、寝袋に落雷してチャックをとかし、その人が寝袋の中に封じ込められた話、90フィートの年雨量、6フィートの日雨量の話などある。写真を見ながら所々拾い読みしてゆくと、日本にはもっとひどい例があるぞといばりなくなったり、日本でこんなことがおこらなくてよかったですと安心したりする。

巻末には35ページにわたる文献目録がある。もともと記述的な本だからアマチュアにとっても大変面白いが、専門家にとっては話の種を仕入れることが出来る点で大いに価値があるだろう。

(島山久尚)